



梅の花

筑波嶺

土浦協同病院新聞

第 90 号

発行所：土浦協同病院
おおつ野四丁目 1 番 1 号
発行人：広岡 一信
題 字：登内 眞

令和 8 年 3 月 1 日発行

患者さんに寄り添う退院

2025 年は団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者になることで医療需要が増大して高齢化社会が本格的に到来する年でした。第 7 次医療計画も今年で区切りが付けられ、今後は 80 歳以上がピークに達する 2040 年に向け、国は第 8 次医療計画を策定しようとしています。将来、人口の約 4 割がシニアになると疾病の種類、罹患者数も変化し、肺炎、心不全、尿路感染症などで入院する高齢者が増えていきます。これらの病気は急速な悪化と軽快を繰り返すので、緊急時は急性期病院が対応しますが、「一旦、治療した」後に慢性期病院や老健施設、リハビリ施設などでの「支える医療」が充実していなければ、すぐに再発することが危惧されます。

一方で生産年齢人口（15～64 歳）は毎年 70 万人ずつ減っていくなか、すでに人口減少が始まっている地方都市では高齢者も減少し始めており、地域社会をどう守っていくかは喫緊の課題となっています。今まで急性期医療を提供してきた病院では、治療が完了すれば、医師が退院日を患者さんと相談して概ね決定し、看護師たちがその日程に合わせて退院できるように手続きを進めてきました。しかし、最近、近所には身寄りがいない独居の方や、同じ敷地内で暮らしている子供世代も日中仕事で出かけているため、面倒を

見てもらえないというような高齢の患者さんが増えていきます。実際、退院した患者さんで一週間以内に再入院する方は約 1%、2% いらっしゃるようです。入院したことで予想以上に体力が低下しており自宅では思うように動けず、栄養や水分も十分とれないため、元の病気が再発することもある。元々の病気が再発するかの疾患を潜在的に抱えておられ、体力低下をきっかけに隠れていた病気が表面化し、再入院となるとという方も多く見受けられます。

これからは、高齢者にとって世話してくれる若い世代が少なくなってくる。治療が終了したので退院と医師が判断しても、患者さんの食欲があるか、身の回りのことは自分で過不足なくできるか、家族など支援は大丈夫か、退院する時に迎えに来る説明を聞いてくれる人はいないのか、など様々な情報を得たうえで、看護師が退院日を最終的に判断することが大切になると思います。もちろん、ベッドの空き具合によってはご希望に添えないこともあります。患者さんに寄り添った日程調整は今後ますます必要となっていくと思われ。『防げる再入院を防ぐ』は当たり前のことはいえ、これからの目標として取り組んで参りたいと存じます。

(病院長 広岡 一信)

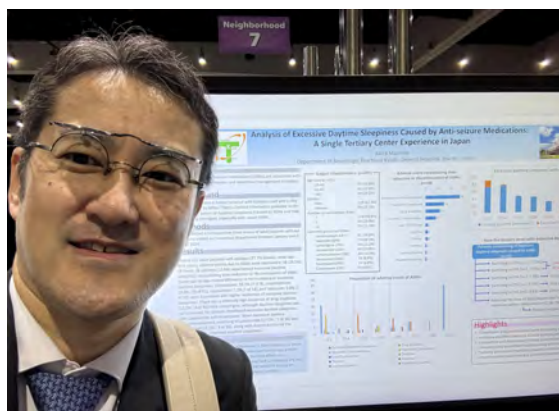
論文発表報告

■ American Academy of Neurology (AAN) Annual Meeting 2025

脳神経内科 町田 明

2025 年 4 月 8 日、サンディエゴで開催された American Academy of Neurology (AAN) Annual Meeting 2025 にて、「Analysis of Excessive Daytime Sleepiness Caused by Anti-seizure Medications: A Single Tertiary Center Experience in Japan」という演題でポスター発表をしてきました。AAN の e-poster 形式は、広い会場に 55 インチのタッチパネルスクリーンがずらりと並び、発表時間になるとその前で聴衆にプレゼンを行います。ポスター印刷が不要で、直前まで内容を修正できるという、発表者には非常にありがたいシステムです。

「直前まで修正できるのだから、登録も直前でよいだろう」と思い、渡米前日に病院の机の PC でアップロードしようとしたところ、すでにサイトは閉鎖。全くアクセスできません。調べてみると「1 か月前の仮登録締切」があり、それを失念していたのが原因でした。この時点で「サンディエゴに行っても発表できない」可能性が頭をよぎり、心の中にじわじわと焦りが広がりました。フライト中も映画どころではなく、頭の中で対応策を延々と考えていました。現地到着後はすぐに AAN 事務局へ直行し、事情を説明。するとスタッフが「OK, no problem!」とあっさり事務局 PC からアップロードしてくれました。発表後の写真には、安堵と疲労が入り混じった表情が残っていました。AAN での発表は 2023 年、2024 年に続き 3 年目。今回の一件で、海外の学会では思わぬ落とし穴があることを改めて学びました。良い意味での勉強になった発表経験でした。



■ Journal of Cardiovascular Electrophysiology

循環器内科 佐藤 慶和

この度、Journal of Cardiovascular Electrophysiology誌に投稿した原稿「Outcomes of Exclusive 50W High Power, 5s Ablation Close to the Esophagus in Pulmonary Vein Isolation」が publish されました。心房細動に対する肺静脈隔離術において、左房後壁への高周波通電はそれに接する食道に対し時に左房食道瘻のような致死的合併症を引き起こす可能性があります。一方、通電設定の一つである高出力・短時間通電は、従来の低出力・長時間通電と比較して広く浅い焼灼巣が形成されることが知られており、心臓周辺組織への collateral damage の軽減が期待されています。今回、食道周辺の左房後壁(食道領域)に対し高出力・短時間通電(50W・5秒)を適応し、術後に上部消化管内視鏡検査を行なってその有効性と安全性を評価しました。対象とした 85 症例中 82 例において初回の通電ラインで伝導ブロックが得られました。一方、食道粘膜障害が 1 例、胃蠕動運動障害が 15 例認められましたが、いずれも無症状であり臨床的に問題となる食道合併症は認められませんでした。今回の研究は、高周波アブレーションによる肺静脈隔離術の有効性と安全性の向上に資するものと考えております。本研究にご協力頂きました消化器内科の先生方には、厚く御礼申し上げます。循環器内科不整脈部門では、心房細動をはじめ多くの不整脈疾患に対する診療を行っております。引き続き各診療科の先生方や医療スタッフのご協力を頂きながら患者様により良い治療を提供できるよう努めて参りたいと考えております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

家坂義人先生を偲ぶ

循環器内科
蜂谷 仁

土浦協同病院におきまして 1984 年から実に 10000 例を超える不整脈アブレーション治療を施行されてこられた家坂義人先生が 77 歳にて 2026 年 1 月 25 日にご逝去されました。日本の不整脈分野における重鎮として、また土浦協同病院院長として多くの重責を担われ果たしてきてくださいました。

スタッフ皆さんに親しまれ、普段は低い声でお話される先生でしたが、学会等では晩年まで鋭いご質問をされる、若手医師には“少し怖い”先生でした。一方で患者さんに対してとても優しく、不整脈治療を受ける当日朝には必ず患者さんにお顔を見せ診察されておられました。

不整脈診療分野におきます御功績の第一は、家坂先生の弟子である先生方が現在もなお日本不整脈心電学会や日本循環器学会において中心的役割を持って活躍されていることであると思います。患者さん第一である、イエサカイズムが日本の不整脈診療の中心に存在しているというわけです。いくつもの御功績を残されておりますが、もう 1 つここで挙げるとするならば 1997 年に世界へ発信されたアデノシン感受性房室結節近傍心房頻拍の発見です。房室結節リエントリー性頻拍と一線を画す本頻拍を系統的に分析され英語論文化されています。日本では今でも本頻拍は『Iesaka AT (atrial tachycardia)』と呼ばれます。

土浦協同病院副院長として 2011 年 3 月に発生しました東日本大震災をご経験され翌 4 月から病院長として病院全体を取りまとめることで一步一步震災による被害・困難を克服されました。2016 年新病院への移転に際しましても院長としての多くの責務を全うされました。

今後、将来に向けて家坂義人先生が残されたものを継承し発展させていくのが残された我々の仕事であろうと思っております。家坂義人先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



DOCTOR'S MAGAZINE May2017. No.211



リレー連載 第 47 回 専門看護師・認定看護師リレー便り

哺乳困難のある乳児への授乳支援

小児看護専門看護師
亀山 千里

現在、私は新生児看護および遺伝カウンセリングにサブスペシャリティを持つ専門看護師として活動しています。特に、超早産児や先天性異常により哺乳困難のある乳児への授乳支援に注力しており、この取り組みの一つとして、ピジョン株式会社の「病産院向け人工乳首選びハンドブック～哺乳の支援が必要な赤ちゃんのために～ (2022)」の監修をしました (ピジョン社, 2022)。このハンドブックでは、授乳支援が必要な赤ちゃんに対して、どのように適切な乳首を選ぶかを体系的にまとめています。さらに、2023 年からはこの取り組みを発展させ、NICU に入院する児がより哺乳しやすい乳首の開発を目指して、ピジョン株式会社が独自に開発した「口腔内哺乳観察システム (IFOS: Intraoral Feeding Observation System)」を使用した共同研究を開始しました (亀山ら, 2024a, 2024b; 岸ら, 2023a, 2024b, 2024c, 2025d)。



【図 1】 データ取得方法の実際



【図 2】 IFOS で取得した哺乳中の口腔内の画像

図 1 に示す IFOS は、吸啜圧、口腔内の状態、吸着状態の変化と圧力変動等を可視化できるシステムです。図 2 のようにこの研究で乳児の哺乳状態をより精密に観察されることで、哺乳困難の原因検索につながることを期待されます。今後は複数の臨床機関での多施設共同研究に発展させ、最終的には新たな人工乳首の開発を目指していきたいと計画しています。

<文献>

亀山千里, 岸千尋, 板垣香里, 岩下悠子 .(2024.11 月 a). 哺乳不良のある NICU 入院児に対する「人工乳首選びのアルゴリズム」を用いた人工乳首の選択に関する検証 . 第 33 回日本新生児看護学会学術集会講演集 (p.156).

亀山千里, 岸千尋, 板垣香里, 落合志文 .(2024b). 哺乳困難を呈した 1 症例の口腔内運動の評価 . 日本周産期・新生児医学会雑誌 . 60. 399.

岸千尋, 亀山千里, 板垣香里, 落合志文 .(2023.11 月 a). 吸啜圧・圧出圧測定を併用した NICU 入院児の非栄養的吸着中の口腔内観察の検討 . 第 32 回日本新生児看護学会学術集会講演集 .(p.120).

岸千尋, 亀山千里, 板垣香里, 落合志文 .(2024b). NICU における経口哺乳実施児の吸着行動の観察 . 日本周産期・新生児医学会雑誌 . 60. 277.

岸千尋, 亀山千里, 板垣香里, 落合志文 .(2024.11 月 c). NICU 入院児の哺乳運動における吸着の発達予測に関する検討 . 第 12 回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集 .(p.116).

岸千尋, 亀山千里, 板垣香里, 落合志文 .(2025d). NICU 入院児における哺乳運動の成熟度および吸啜圧・圧出圧の関係性 . 日本周産期・新生児医学会雑誌 .61.232.

ピジョン株式会社 . 亀山千里 (監). 2022-08. 「病産院向け人工乳首選びハンドブック～哺乳の支援が必要な赤ちゃんのために～」, ピジョン株式会社 . <https://ai.pigeon.co.jp/catalog/catalog13/?pNo=1> (参照 2025-11-04)



論文発表報告

■ Journal of Cardiovascular Electrophysiology

循環器内科 原 聡史

Conduction time around the mitral annulus has the potential to rule out the postablation peri-mitral atrial tachycardia というタイトルで Journal of Cardiovascular Electrophysiology. 2024; 35:348-359 に掲載されました。本論文は昨年報告致しました 2023 年の European Society of Cardiology で学会発表した内容を基に記載しております。心房細動に対するカテーテルアブレーションが広く行われておりますが、術後に心房頻拍にて再発をきたすことを時折経験致します。その中でも僧帽弁輪周囲に頻拍回路が成立するものが最多となっております。通常この頻拍に対しては、左下肺静脈から僧帽弁にかけて線状焼灼 (MI ablation) をすることで回路の離断を試みますが、心外膜側を通っている Marshall 静脈の影響や、解剖学的に心筋が厚いこともあり、離断は容易ではありません。心房頻拍が持続せず回路が確定できなかった時に、MI ablation を予防的に行うか判断に迷うときがありますが、本研究は僧帽弁輪周囲の伝導時間を測定することで、頻拍回路が成立しないかを事前に予測できることを示し、今後のアブレーション方法の判断の一助になればと考えております。

■ Catheterization and Cardiovascular Interventions

循環器内科 下里 光

土浦協同病院 循環器内科の下里光です。このたび、当院での研究成果をまとめた論文「Association Between Pathophysiological Disease Pattern and an Increase in Absolute Coronary Flow Velocity After Elective Percutaneous Coronary Intervention」が、循環器分野の国際学術誌 Catheterization and Cardiovascular Interventions に原著論文として掲載されました。

本研究では、定型的 PCI(冠動脈インターベンション) を受けた患者を対象に、PCI後の冠血流量の改善と病変の病態パターンとの関連を検討しました。特に、QFR(Quantitative Flow Ratio) 由来の Pullback Pressure Gradient(QFR-PPG) 指標に着目し、これが術後の冠血流速の絶対的な増加を予測しうることを明らかにしました。PCI前の FFRや S-TDE(負荷心エコー) に加え、非侵襲的かつワイヤーフリーで病変の局在性を定量化できる QFR-PPG指標を併用することで、より高い予測精度が得られる可能性が示されました。

本研究を進めるにあたり、日々の臨床・研究の両面でご指導いただいております角田恒和先生、また解析面・論文作成にあたって多大なご助力をいただいた臼井英祐先生に深く感謝申し上げます。今後も臨床の現場から生まれる疑問をもとに、実臨床に還元可能な研究成果を発信してまいりたいと思います。

救急功労者表彰受賞に寄せて

救急集中治療科

遠藤 彰

このたび、令和 7 年 9 月 17 日に、大変光栄なことに土浦市消防本部から救急功労者賞を受賞いたしました。今回の受賞は、日々のハードワークの中でも地域の「最後の砦」としての使命を胸に重症救急患者を 24 時間体制で受け入れ、真摯に救急医療と向き合っているスタッフ一同のたゆまぬ努力の賜物と考えております。全国の医療機関と同様に当院も働き方改革、経営難、人員不足に直面しております。困難に立ち向かい、地域貢献を継続するために重要なのはチームとシステムだと思います。救急医療を個に依存することなくシステム化するとともに、救急外来から集中治療、リハビリ、在宅支援に至るまで職種の垣根を越えたチーム医療を展開し、最適かつ持続可能な医療を提供することを目指しています。今回の受賞を励みに、今後もより質の高い救急・集中治療を提供して地域の皆様が安心して暮らせる医療システムの維持・発展に尽力してまいります。引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



表彰状授与式の様子

web開催 土浦協同病院市民公開講座

口腔から全身を考えよう

2026.1.26(月)～
当院ホームページ上に公開

無料動画配信開始

配信期間中はいつでも何度でも
視聴できます

視聴方法

二次元コードから動画視聴
ページが開きます。視聴後の
アンケートにご協力ください。

■ contents

- | | | |
|------------------------------------|----------------|--------|
| 01 院長挨拶 | 病院長 | 広岡 一信 |
| 02 口腔と全身の深い関係～今日からできる健康長寿のポイントとは？～ | 歯科口腔外科 | 佐藤 昌 |
| 03 誤嚥性肺炎を知ろう！～お口と誤嚥性肺炎の関係性～ | 摂食・嚥下障害看護認定看護師 | 仲田 真理子 |
| 04 歯科治療を安全に行うために ～お薬との関係を理解しましょう～ | 薬剤部 | 後藤 慶光 |
| 05 口腔内の健康は自分で守る！ | 歯科衛生士 | 城本 弥生 |
| 06 お口の煙を断ち、私たちと新しい縁をつなぎましょう！！ | 予防医療センター | 佐々木 優奈 |

お問い合わせ：土浦協同病院 総務課 市民公開講座 029-846-3682 土浦協同病院 市民公開講座